

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

注目されていた英国の国民投票の結果は、大方の予想を裏切る EU 離脱となりました。ドル/円相場は直近の安値103円55銭をあっさり割り込み、2013年11月以来の100円割れとなり、一時99円ちょうどの安値まで下落しました。

【ドル/円 週足】



英国の EU 離脱は世界経済の先行き不透明感を強め、また米国の早期利上げを妨げるものと捉えられており、中期的にドル/円は円安に大きく戻る見通しはとて描けず、95円割れをもイメージする必要が出てきました。

95円水準は、2011年の安値から2015年の高値の61.8%戻しとなっており、当面のドル/円の下値の目処となります。

しかし、52週移動平均との乖離で見ると、6月24日につけた99円では約15%の下方乖離となり、リーマンショックを受けドルが下落した2008年の下方乖離とほぼ同じ水準になることから、過度な下がり過ぎの反動での短期的なドルの戻りも期待されます。

また、10兆円規模の大型補正予算への期待やヘリコプターマネー政策への思惑が円の上値を抑える要因となっていることから、当面は再び100円～110円のレンジ相場が続くこととなりそうです。

■ 短期展望

先週は、想定外のドル買い・円売り圧力から103円の壁をあっさりとクリアし106円台まで上昇する展開となりました。

ドル/円相場のトレード戦略

これは、バーナンキ前FRB議長が、11日に黒田総裁を訪問、12日に首相官邸に招かれ安倍首相と会談した事で、市場はヘリコプターマネー政策をイメージし、大幅に円買い持ちにしていた海外投機筋のポジション調整を引き出したことが大きな要因です。

このドルの戻りにより100円割れ定着の円高危機は目先脱却しました。

しかし、この動きは期待先行の動きであり、さらに上値を試すには新たな材料が必要でしょう。当面、上値は5月30日の高値から6月24日の安値の61.8%戻りである107円水準、下値は強い上値抵抗であった103円水準が意識されそうです。

したがって、今週は103円～107円のレンジをイメージしながらも株価動向をにらんでドルの底堅い展開を予想します。